

インターバンクの声（2017年8月4日）

英中央銀行(BOE)の金融政策の発表までは110円60銭前後で小動きを続けていた円相場は、BOEの発表で利上げを唱えた委員が増えるどころか前回の3人から2人に減ったことが分かったと、ポンドの急落に巻き込まれるように円買いが進んだ。

それでも翌日に米雇用統計の発表が控えていることから、円買いも一旦は110円台前半で止まったようにも感じられた。しかし、昨夜はもう一段の円買い・ドル売りとなる材料が待ち構えていた。

7月の米ISM非製造業景況指数が市場予想を大幅に下回る53.9の低水準となり、項目別でも雇用が前月から低下する発表があったのだ。

8/1に110円を割った際には109円90銭台の買いがはっきりと確認され、110円台を保っての雇用統計待ちかと思われたが、再び110円を割り込んでしまった。

それでも何とか110円台に再浮上したが、最後は今年の米大統領選に絡むロシアの干渉疑惑を捜査しているモラー米特別検察官が、ワシントンで大陪審を選定したことが報じられ、109円80銭台まで下げている。

雇用統計の内容が弱ければ、いよいよ円高が加速しそうな雰囲気だ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。